

第77回 日隈 美代子さん (静岡産業大学)

日本心理学会若手の会コラムリレーでは、若手のみなさまに、ご活躍されている領域や普段の生活についてご紹介いただきます。

第77回目は、日隈 美代子さんにご執筆いただきました。

「適当」で「いい加減」であること

学部、修士課程、博士課程と、すべて違う大学、違う学部・研究科、違う先生方にお世話になり、記憶の正確さと確信度の関連を研究してきました。けれども現在は、保育士養成課程で実習や子育て支援、食育といったことに関わっています。修士課程修了後は小学校教員をしていたため、研究から離れていた期間もそこそこあります。これまでを振り返ると、心理学の研究者としては一貫性がないように感じる半面、それがよかったとも思っています。小学校教員時代は心理学で学んだものの見方が役に立ち、今は小学校教員時代に鍛えられたことが大いに役に立っています。一方で、ある意味何でも屋になってしまっていることが、しんどく感じるときがあるのも事実です。

しんどい時の私的アゲアゲ曲の1つに『Always Look on the Bright Side of Life』があります。「適当」や「いい加減」という言葉は、ネガティブにとらえられがちですが、本来はポジティブな意味合いも持っている言葉です。何でも屋をしていると、(すべてを完璧にできればよいけれど)うまく行かないことも、もちろんあります。けれどもこの曲の歌詞は、「いつも人生のいいことだけを見ていればいいんだよ」と、私を気楽にさせてくれます。何でも屋なりに、どこにいようと、何をやろうとも、(良い意味での)「適当」で「いい加減」で大丈夫だと思って、今できることに向き合い、取り組んでいます。

日隈 美代子 (Miyoko HIGUMA)

【所属】 静岡産業大学 経営学部

【連絡先】 m-higuma@ssu.ac.jp

【HP】 <https://researchmap.jp/drekigram>

【その他】 記憶と確信度の研究も続けています (というほどはできていませんが……)。また、小学校教員の経験を活かした研究も行っています。教育・保育現場の現職の先生方のアドバイスや協力をいただきながら色々やっています。よろしければ、お気軽にご連絡いただけると嬉しいです。